

種の概要

北海道では夏鳥、本州、四国、九州、沖縄では留鳥。兵庫県では周年見られる。海岸、大河川、湖沼などに生息し、断崖のある海岸や森林の大木などで局所的に繁殖する。主に魚類を、水面に急降下して捕食する。一時期、魚類の農薬汚染などで繁殖成功率が大きく低下したと考えられている。



写真提供:三谷康則

国内分布

北海道、南千島、本州、佐渡、舩倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、伊豆諸島、小笠原群島、北硫黄島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、豊岡市、加古川市、赤穂市、(西脇市)、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、三田市、加西市、(篠山市)、養父市、丹波市、南あわじ市、朝来市、淡路市、宍粟市、(加東市)、たつの市、猪名川町、(多可町)、稲美町、福崎町、太子町、(上郡町)、香美町、新温泉町 ※県内繁殖有



生息確認時期
 ■ 2003年以降
 ▨ 2002年以前

主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

ランク変更なし。
 かつては県内各地で普通に見られたが、開発に伴い営巣地の多くが消滅し、個体数が激減した。近年は高圧鉄塔の最上部で繁殖する個体も出現し、個体数の減少傾向は止まったと考えられるが、未だ個体数は少ない。



写真提供:三谷康則

保護上の留意点

新規の営巣場所となっている高圧鉄塔上など、人工構造物での営巣環境の保全および繁殖期における営巣地周辺での釣りなどの規制が重要。



写真提供:但馬野鳥の会